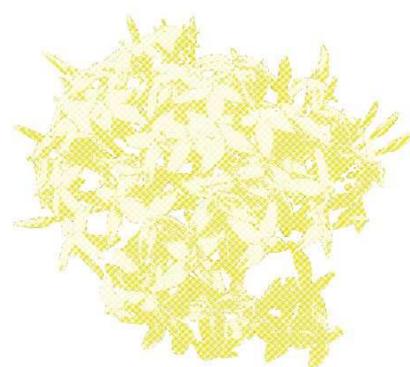


3 将来像と目標



3. 将来像と目標

3.1. 基本理念

旧水道ビジョンにおいては、水道を取り巻く時代の転換点において、先人達が地域において築きあげてきた市民との信頼に基礎を置き、地に足がついたものである必要があるとし、水道の給水対象としてきた地域と市民との間において築きあげてきた信頼の概念を重要視し、「地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道」を基本理念とし、各取り組みに挑戦することを示しています。

水道水は、市民の生活や都市活動を支える基本的な資源であり、清浄な水を常に安定して供給できることが求められています。また、沖縄県は渇水に悩まされてきたことから水はいのちに等しいと言っても過言ではありません。

近年、水道事業を取り巻く状況が著しく変化し、水道事業の抱える新たな課題に的確に対応するとともに、多大な投資を必要とする施設の改良・更新や、合理的な経営について、計画的に対応することが望まれています。さらにマスタープランや市総合計画においては国際化、持続可能な都市が謳われていることから、将来にわたり安定して水を供給する事が望まれています。

旧水道ビジョンにおいては、今後、水道局が、施設更新・災害対策の強化が必要となり継続的に設備投資が必要となるにあたり、運営基盤の強化に努め、料金水準を保ちながら、利用者から信頼される水道を目指すために「市民を支える安全・安心な命の水を未来へ」を基本理念に掲げてきました。

基本理念は、将来においても宜野湾市水道局が目標とする理念として引継ぎ、ビジョンのフォローアップにおいても、この基本理念をもとに水道事業に取り組んでいきます。

市民を支える安全・安心な命の水を未来へ



3.2.基本目標

厚生労働省の新水道ビジョンでは、「時代や環境の変化に的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道」を実現するために、水道水の安全の確保を「安全」、確実な給水の確保を「強靱」、供給体制の持続性の確保を「持続」の3つの観点を示しています。この3つの観点から実現方策を策定していく必要があります。

宜野湾市においては、厚生労働省の新水道ビジョンを踏まえ、3つの観点毎に基本目標を設定しました。

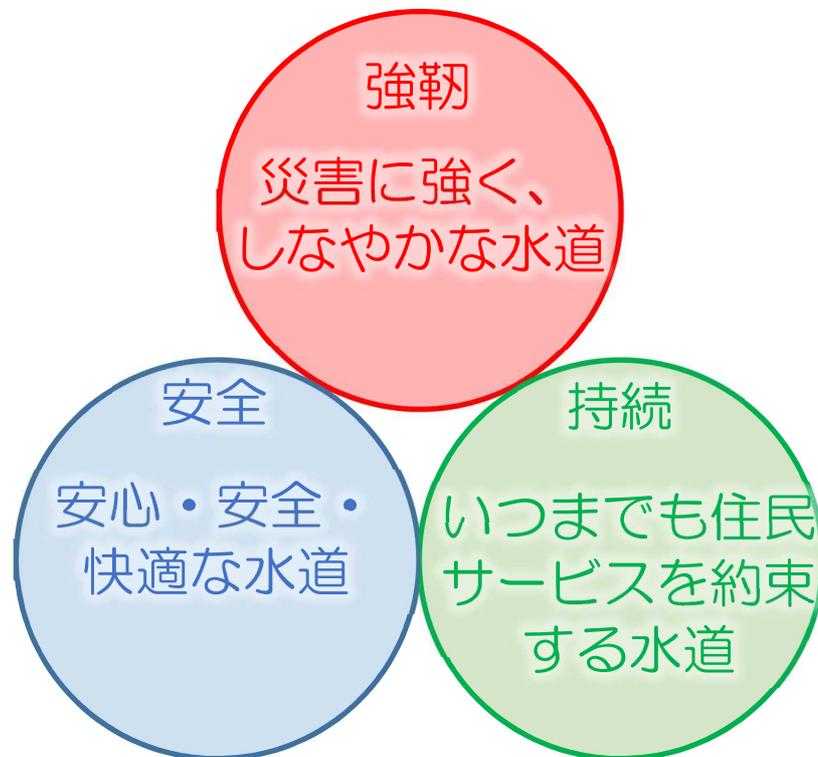


図 3.1 宜野湾市水道ビジョンの基本目標

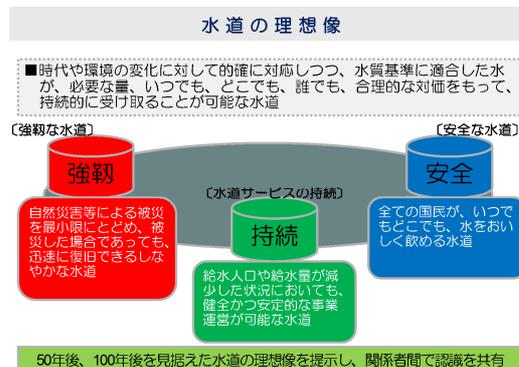


図 3.2 厚生労働省の新水道ビジョンにおける水道の理想像（参考）

3.3.基本施策

3つの観点から課題を整理すると表 3.1 に示すようになります。旧水道ビジョンの施策を交えて実現施策を定めました。

表 3.1 課題と実現方策

目標	課題	実現方策
強靱 災害に強く、しなやかな水道	径年管路率は低い状況にあり、管路の更新率も減少傾向にあります。目標年度の平成37年度まで法定耐用年数(40年)を超過する管路が多く発生します。 また、耐震診断調査結果において、喜友名配水池基礎部の耐震補強が必要であることが明らかとなっているため、キャンブ瑞慶覧地区跡地整備事業の計画を考慮した計画的な耐震化を図ることが望ましいです。	耐震化計画との整合を図った喜友名配水池の更新、新設配水池の築造 配水池の耐震化 幹線ループ耐震化 空気弁を消火栓付き空気弁に整備 給水タンク等の確保及び増量
	安心・安全・快適 な水道	沖縄県では過去に濁水が頻発し水不足に陥る事が多かったことから、受水槽方式が多く採用されています。受水槽の衛生問題や水質トラブルを解消することが期待できる直結給水方式は、普及を図ることが望ましいです。
持続 いつまでも住民サービスを提供する水道	利用者への情報提供	利き水会や水道施設見学会の取り組みについて検討
	危機管理体制の強化	危機管理マニュアルを改定する
	維持管理の強化	施設の計画的な更新と併せて、保守管理の徹底及び事故時の体制強化に努める
	技術力の強化	外部研修、資格取得の向上
	財政基盤の強化	良好な経営を維持
	建設副産物のリサイクルの向上	アスファルト塊のリサイクル100%以上を今後も維持
	再生可能エネルギーの採用	太陽光発電の導入を進める
	省エネ化・温室効果ガスの削減	機器更新時に省エネルギー型の機器を積極的に導入
	国際協力を通じた水道分野の国際貢献	海外研修生を受け入れ

